APP 環境新聞

発行日　2025 年 12 月 26 日
発行者　エイピーピー・ジャパン株式会社（APP ジャパン）
ユニバーサル・ペーパー株式会社（UP）

APP は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

東京都産業労働局と東京都農林水産振興財団による視察の様子

森の再生プロジェクト ～いっしょに SDGs に取り組もう!～ 活動報告<13>

エイピーピー・ジャパン株式会社（以下、APPジャパン）とユニバーサル・ペーパー株式会社（以下、UP）は、売上の一部を寄付してインドネシアの荒廃した自然林を再生する『森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう!～』（以下、森P）を行っています。

2025年3～5月にかけて、森Pの活動エリアであるインドネシア・リアウ州のスルタンシャリム・ハシム大森林公園(SSH)では、管理責任者であるミナス・タフラ森林管理ユニット(以下、KPHP)とベランターラ環境保護基金のスタッフ、およびレンジャーによる合同パトロールが行われました。その時には、地域住民による違法伐採や侵入の痕跡は確認されませんでしたが、スマトラゾウの足跡と糞や、マレーバクの足跡、テナガザルの鳴き声など、直接遭遇することはなかったものの野生動物の生息地であることが確認できました。

侵入現場を調べるスタッフ

しかし、5～6月のパトロールでは、地域住民による侵入の跡を確認したため、当局へ通報し周辺の地域住民には森林への侵入と焼き畑の自粛を訴えました。

止まらない侵入を防ぐために、8月のパトロールはKPHPスタッフに加え、リアウ州の森林警備隊、また「Gakkum/ガックム」と呼ばれる当局スタッフで実施されました。その結果、エリア内で事業許可なくパーム油の実がなる椰子の植林活動といった森林の違法伐採や焼き畑、無断使用の疑いがある3名がパトロール中に逮捕されました。この3名については現在、インドネシア林業省による捜査が行われています。

違法伐採などの森林に対する違法行為は、重い刑罰が科せられます。9月には、違法行為に対する警告のサインボードをいくつかの場所に設置しました。これにより地域住民が活動エリアに侵入すること自体を違法行為であると認知し、侵入や伐採・焼き畑が止まることを祈っています。

侵入禁止警告のサインボードを設置

今年の活動は、こうした植樹済みエリアのパトロールと焼かれた苗の植え替えに終始し、残念なことに新たなエリアへの植樹ができませんでした。（次号へ続く）

森 P 進捗情報

APP視察ツアーを実施

2025年10月27～30日、今年6月に続き日本の取引先様や金融機関様4社合同のAPP視察ツアーを実施しました。

また12月3日にはインドネシアにおける早生樹の森林管理の現地調査として、東京都労働産業局森林課と公益財団法人東京都農林水産振興財団の皆様にも視察にお越しいただきました。

両ツアーにおいて、皆様はスマトラ島のAPP植林地と紙パルプ工場を視察し、取引先様2社は森Pサイトで記念植樹も行いました。

森P現場での記念撮影

ここにも森Pロゴ/感謝状をお渡ししています

UP
「アロマティシュ」

株式会社チンタイバンク様
「minimini カレンダー」

株式会社吉岡様
「自社カレンダー」

桔梗屋紙商事株式会社
阿部社長様(左)

いつも森Pにご賛同いただき、誠にありがとうございます。

EUDR 施行再延期

EUDR（欧州森林破壊防止規制）の開始時期が、2025年12月から1年間延期されました。

APPは、自社植林地由来の原料に対する情報開示システムをテスト稼働中です。しかし、多くの対象企業は情報開示が間に合わず、当初の2024年12月施行予定から2度目の延期となっています。

*EUDR：欧州で流通する森林由来製品の持続可能性を担保するための情報開示制度

第14回高校生国際ESDシンポジウム 国際フィールドワーク分科会@筑坂高校開催

分科会の様子

2025年11月15日、筑波大学附属坂戸高等学校（以下、筑坂高校）において、第14回高校生国際 ESDシンポジウムが開催されました。

筑坂高校では、SGH（スーパーグローバルハイスクール）事業の一環として2014年度からインドネシアにおいて「国際フィールドワーク」が実施され、特にインドネシアの提携校や現地の住民との協働活動、そしてAPPとの連携活動を中心にプログラムを展開しています。

本年度は、これまでにインドネシア・フィールドワークに参加した筑坂高校2、3年生の皆さんが自ら分科会を設計して進行を務め、「持続可能な社会作りにつながるこれからの海外研修について」をテーマに話し合われました。最初にボゴール農科大学附属コルニタ高校、インドネシア教育大学附属高校、マレーシアSMK Dato Onn高校の生徒の皆さんから学校紹介があり、当社山崎よりAPP社の取り組みや現地研修の内容、森Pについて紹介を行いました。

また、2025年度インドネシア研修に参加した筑坂高校と愛媛大学附属高等学校の生徒さんによる学習成果報告があり、「私たちの生活が森林に依存していることを自分ごとにする」など、現地での体験の気づきを発表・共有することの大切さや、後輩に向けて続く海外研修への参加が推奨されました。その後、参加校皆さんの混成チームが形成され、「2026年度の海外研修について各校が一緒にどのような探求や連携ができるか」について闊達な話し合いが行われ、「当事者性」や「国際協働」をさらに発展させていくための海外研修のあり方について交流が行われました。

最後に、当社会長のタンから、来年度にはさらにAPPがインドネシア地域住民への支援をこれまで以上に強化していく事業構想を発表、次年度の研修への期待を述べました。

*ESD(Education for Sustainable Development)=持続可能な開発のための教育

エコプロ2025に出展しました

12月10～12日、APPジャパンと UPは共同で東京ビックサイトにて開催されたエコプロ2025に出展しました。2013年から13年連続の出展となり、年末恒例のイベントとなっています。

会期中は多くのお取引様がブースにお越しになり、経営陣自らAPPの環境に対する取り組みの説明を行いました。

また、ブースにて実施したAPPクイズも来場した小中学生を中心に大盛況となり、3 日間で1500名を超える方にご参加いただくことができました。

ブースではAPPクイズを実施

ご来場及び当社ブースへご来訪された皆様へはこの場を借りまして御礼申し上げます。

中高生272名の企業訪問受け入れ 2025年

2023年より開始した中高生の企業訪問受け入れにおいて、今年は26校、合計272名の生徒さん達をお迎えしました。

最近は、キャリア学習を希望される学校が増えてきたので、講義終了後に色々な部署の社員が参加して行う質疑応答を設けて生徒さん達と意見交換を行っています。

当社訪問の様子

仕事のやりがいや、学生のうちに身につけるべきスキルは何か？などの質問が寄せられ、その積極的な姿勢に参加した社員も刺激を受けています。

インドネシア・フィールドワーク参加校を訪問

ベランターラ環境保護基金 ドリー事務局長

森Pを現地で管理するベランターラ環境保護基金のドリー事務局長は、エコプロ2025に合わせて12月に来日し、今夏に森P現場にて記念植樹を行った高校、大学を訪問しました。

12月8日に筑坂高校、翌9日には愛媛大学附属高等学校、そして11日には筑波大学の野村国際交流支援室長を訪れました。

野村室長には、2023年から実施している筑坂高校と筑波大学連携によるインドネシア・フィールドワークの筑波大学窓口として、今年も10名の学生さん達の参加にご尽力をいただきました。

野村室長(左)へ感謝状贈呈

参加された学生さん達から現地において有志の寄付をいただいたので、今回はその感謝状を野村室長に贈呈しました。

APPジャパン/UP 社員の声 森Pツアー参加者より

今年6月、お客様と一緒にインドネシアツアーに参加をしました。これまで、「森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう！～」を通じて売上の一部をベランターラに寄付したり、貢献をいただいているお客様に「ありがとうカード」をお渡しさせていただいてきましたが、この活動がインドネシアの森林保護にどのように貢献しているのか、正直これまで深く考えたことはなかったです。

東京都12個分の森林、と聞いてはいましたが、その広大さに驚き、森の豊かさや森を守るために日々奮闘している現地スタッフの大変さについて、実際に体験することで理解が深まりました。

スマトラゾウと(筆者右)

養蜂に携わる地域コミュニティの方たちは、違法な焼き畑を行う立場から今は森を守るために森林火災の抑制を意識されていること、また、わたくし動物が好きなこともあり、絶滅危惧種のスマトラゾウと身近に触れ合うことができたことはとても記憶に残っています。

ご関心をお持ちのお客様、ぜひ次回のご参加をお待ちしております。

森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組もう!～ 参加方法

1. プロジェクトの対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方

(sustainability@appj.co.jp までお問い合わせください)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

http://www.app-j.com/topics/1673.html